露火のさすらい 第一部

雲海から銀河へ

H.E 博孝作

第一章　ＪＹＥＪＹＥの誕生

第2章　JYEJYEの成長

第 3 章　　**JYEJYE** の母と父

第 4 章　　**JYEJYE** の夢

第 5 章　　**JYEJYE** の帰還

http://geomatics85.org/ehlt/

2015-09-01

露火のさすらい　第一部　序

露火のさすらいを思い立ってからもう 10 年たったろうか。

人間の顔写真を 2 枚半分ずつ重ねたら一人の顔になったことから意識の合体と言うことを思いつき,一章を書き始めた。以前から SF かきたいと思っていた。レンズマンシリーズに魅せられた日々。EE.スミスが工学博士であったことが、今更のように思い出す。H.E 博孝の関連連想好きが、5 章の作品になった。第 2 章を文字変換するという方法で第 5 章を作ったが、意識空間合体を言うテーマにダブらせている。矛盾も含めた、登場人物名が出てくるかもしれない、2 重人物や、2 重時間や、2 重場所,これらも、この本の主題の一つである。こうして考えてきて、SESE とか NENE とか JYEJYE という人物名も、2 重の文字を使っているのを今発見した。また題の露火という言葉は、里芋の露が、葉先にぶら下がり光っていたのを写真に撮り大事にしてみていたときに思いついたのである。その写真は今は見つからない。どこかをさすらっている。

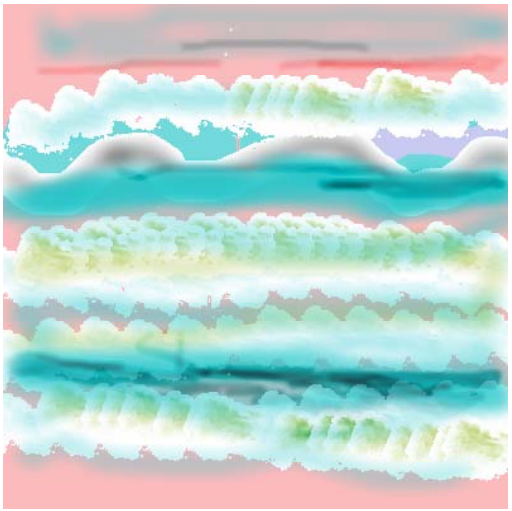
　皆さんの感想を聞き、露火のさすらい、第 2 部を書いてみたいと思っている。

幾分、技術用語を減らし、文化系の人にもわかりやすい内容にし、つまり、2 部は、SF でなく,紀行文的さすらいにしてみたく、内意識のさすらいにしたいと思っている。

それには、少し時間をください。とにかく、第一部、未熟な本ですが、お読みくだされば幸いです。

第一章　JYEJYEの誕生

雲の海からマゼラン星雲へ



（1）男性と女性の意識の合体

そしてそのずれを癒す植物の愛

男は、学問と宇宙の大海原に乗り出す。

女は、学問と心の大空に夢見る。

そして出会った日

意識が合体を始めた。

しかし、映像には、始め成らなかった。

二人の意識が、雪山を彷徨った。

キュロットに出会い

道に迷った。

そして、また麓の紫の花畑を彷徨った。

自他が混乱し、意識が、木の幹へと

浸透した。

時が経ち、二人の意識は、元の恋人たちに蘇った。

それは、サボテン酒のおかげである。

＊＊＊：：：：：：：：：＋

柿は、花畑を歩いた。

深い深い森の中

いくにちも木立と

すごし、

組織の培養で、

月が出る日まで

一緒だった。

そして、その月が、

男女の夢を蘇らせ

3つの意識空間は、回復した。

女性が、柿を持っていたお礼を

男は言った。

＊：：：：：：：：：：：：：：：

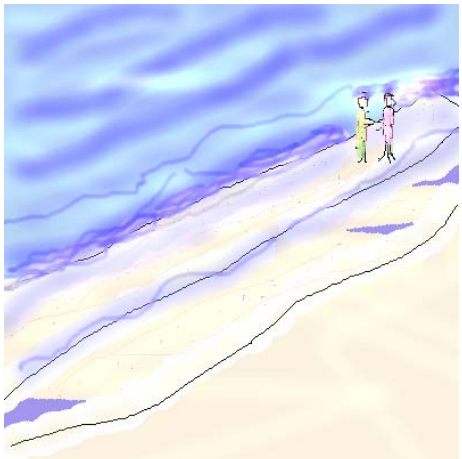
渚でもらったTは、その意識たいを持つ炭素系組織を

惑星上空から捜す。

そして、この惑星系には、無いことが分かり

マゼラン星雲へと旅立つ。

（2）なぎさで



「私たちの子、成長したね」
「そうかい、しらなかった」
「また、飛行士の仕事に戻るの」
「当たり前だ」
「しばらくお別れね。
でも、私たちの子がいるか、寂しくないわ」。
僕の仕事は、一段落。
砂漠のサボテンのささやき
明日は晴れるだろう。

あした

「あした、また、渚で」
『「もうお別れかい」
「ひぐれどき」
「わかった」
「いいかい」
「よして」
「さみしいね」』
「これで」
・・・・・・・・・＊＊＊＊＊～～～～～

（3）私たちのルーツ

僕の意識は混乱した。
ここは、零下４０度
早2時、
「おきて」
「だれだ」
「わたしよ」
「水管が治った」

「ありがとう」
「水泡も消えた」
「あとは、私の膜ね」
「もう1時間もすると消えるよ」
「ありがとう」
いまだ。
僕は、追った。
彼らが消え、意識が、ずれた。
「もう戻らない。」
ぼくは、おもった。
そして、キュロットを下り始めた.

[SAYOUNARA GINNGA]

[SAYOUNARA SPACES]

明日を待つ。おおきくなって。。。。。。。＞＞＞＞＞＞。。。。。

氷雪の山

「君の目には、まだ細胞膜がある」
「あなたの目には、水泡がある」
「つかまれ」
「ああ。。。。」
一瞬遅かった。
彼らは、氷雪の中に消えた。
僕は、彼らを追った。
いや、彼だ。
いや、あなただ。
僕は、戸惑った。
キュロットの中に消えた。
このまま、下山。
僕は、まだ、山に登り、目標を諦めたのは、
一度だけ、雷鳴が聞こえる日だった。

KOKOA do ko

「きみ　みえる？」
「わからない」
「ぼくはみえる」
「そう？」
「ジャ、私を連れて行って」
「いいかおり」
「僕の手をしっかり握っているだよ」
女の子は言った。

君の目をもらった

「僕らは、I-11に消える。」
「それは、いつ、」
「山路だ。」
「雪の上？」
「そう、」
「トンネルを抜けた？」
「いや」
「木が指さしたの？」
「そうだ」
芽をもらった女が言った。

（4）ここは、マゼラン星雲αX星太陽系

ここには第5惑星と第8惑星に生命が確認されている。

しかし、その高等者のメタサイエンス系の更新確認がとれて居ず

初等空間を使い、その確立を急いでいる。

「地球の思考系のチェックを始める。」

TI2が言った。

「ここ第８惑星には、我々が住める待機がある。

しかし、まだ待機からは出られない。

どうも、地球と違う演算系を持つらしい。」

TJ2が、TI2に言った。

「(I,J)座標系は、閉じていない」

「論理演算信号は、キャッチできない」

「それじゃ、今回持ってきた、方位研究所の

画像二枚を、量子パルス照射器を持ち

地上に、転写しよう」

二人は、話し合っている。

待機の環境ももう長く維持できない。

「手の指が、４，３

アシの指が7，８」

これがけは分かっている情報

TJ2が言った。

[OHAYOU おはよう　Good　Morning」

TJ3がいった。

TIJ2は、[SOS」をキャッチ

「何処からのメッセージか確認中」

今、αX星の上では、新しい朝が始まり

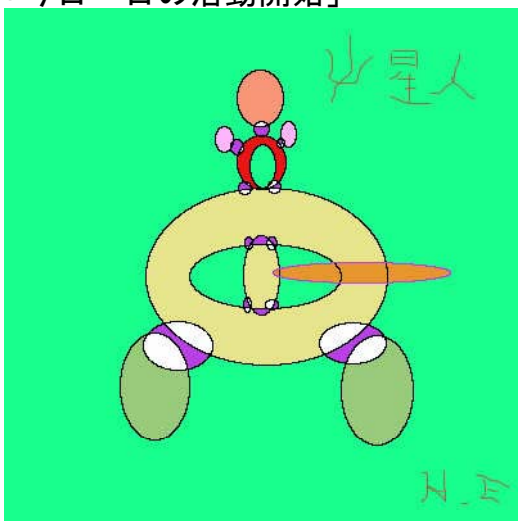
１０人の地球先発隊が、活動をし出した。

「sosv」をキャッチ

「さあ、忙しくなるぞ、」

「何の信情か」

「今日一日の活動開始」



「ψ星人誕生を目撃」

TI3がさけんだ。

「sos]は

TI2から,TJ2にあてた「めーっせじ」

だった。

（5）。　登場人物　TIx,TJx　紹介

TIx：地球から、アンドロメダ大星雲（我が銀河、地球から１６万光年離れている）のαX星に飛び立った宇宙飛行隊
TJx：、同じく宇宙探検隊、TI隊より速くαX星公転軌道に付く

TI隊とTJ隊が、どちらが、いつ、地球をとびったったか、いまα星歴と地球歴の換算中。ともに異次元非行をしたらしい。

(6). Orion の中の小三つ星と大三つ星

TI3は、今オリオン星雲と伝想している。
「小三つ星と大三つ星の傾斜角は、
アンドロメダ星雲の方向とどう関係があるか？」
今、リゲルと火星とアンドロが、ほぼ一直線
今後そのような位置関係は何年先か」

TI3は、また、露火をたき、地球に戻ろうとした。

助けて　THET

たすけて　THET

(7). 一時帰還

TI3は、地球へ一時帰還する。

彼は、転送ボックスへ入った。

ここで、転送ボックスについて、少し解説する。

異次元空間転送路は、見つかったのは、４次元歴（４、

３、２、１）である。空間（１，１，１，X)を用いる。

昔良くはやった人間そのものの転送ではない。

人間の入ったボックス空間の転送である。

これは、４次元多面体の３次元展開理論の応用である。

人間のようか奇妙な形そのものの転送は、まだできない。

転送ボックスごと転送するのである。

そのボックスは、かなり精度良くできている平行６面体である。

さて、TI2は、転送ボックス（T,I,3,X)と（T,I,3,Y)を用意した。

Xが送信用,

Yが図信用

Zが伝送チューブ

これは、ロープウエイに居ている。

TIJK想起というものである。

TIJK３号が先に開発され

TIJK2号が、その後である。

TIJK３号内には、１０人のボックスが備えられている。

TIJK2号内には、１７人のボックスが備えられている。

さて、地上に、TI3は、４次元歴を用いて帰還した。

日本で、めでたいことがあるという。

また、緊急生命現象の発生である。

一時帰還したTI3は、渚を散歩した。

8).高直メモリー　TI3abc

CDRを太陽光に当てた。

DVDRを太陽光に当てた。

そこから、TI3abcde4321。１１１x

を作る。

今日の仕事は、終わり

TI3は、渚から、雪山の球レット観測所上と急いだ。

(9). 黒点カウンター

X:=(。。。。。。。。＞＞)＝(。。。＞＞。。。＞＞)＋(。＞。＞。＞。＞＞＞)
＋
＋
＋
IF　{{{X}+{y}＋{Z}}}＞{{{X－1}＋{y－１}＋{Z+i}}}　then　I=I+1：FI

－＞PRINT　T(#I#)

基礎連想設計

「これは、感度を上げれば、２次連想機器

星カウンターへ応用できそうだ」

TI3Tは、TI3に言った。

　帰還歴測束無事終了

TI3は、帰還歴TI3abcde１１３５７１６

を確認し、安心した。

さあ、自由時間だ。

今日は、r埜氏に会い、何処に行くか決めよう。

心は、弾んだ。

r埜氏は、いま、q埜子と、婚約中

一緒に、食事をしよう。

僕らは、美食も１／１０００エンゲル係数を超えない。

３人で３／１０００食花である。

rqの将来は、明るい。

「sosv」を想軌したのか、rqだった。

日日草が、今も咲いている。

楽しい蝶想を見た。

フォトアルバム。。。。。。。。－＋

を見て、３人は笑った。

「今日の芋料理は、最高」

q埜子は、微笑んだ。

「ありがとう、婚約祝い」

r埜氏は、TI3に礼を言った。

「いや、TI3Tのおかげだよ、

いずれ、君たちの子供は、αX星に行けるよ」

「ほんとう？」
「うれしいな」
「今日の日を忘れるな」
「はい、」
「ようし、三人で泳ごう」
「私、水着に着替えてくる」
「そのままでいいじゃないか」
r埜氏は、冗談を言った。
「どういう意味」
「いや、二人の秘密」
「ごちそうさま」
・・・・・・・・・・
三人は、オリオンの３つ星
をみて、いる。

３つの紅茶が運ばれてきた。
・・・・・・・
「またね」
「今日は有り難う」
「さようなら」

（１０）。2050年　宇宙の旅

人は皆、人として、生きることができるだろうか
サイボークに成ってまで、生き続けて
一つの細胞だけでも、新しい高度な生命体の元に
旅し続ける必要があるのでは無かろうか
それほど。宇宙の旅は厳しい。
そして、偉生命の元で、叫びを上げねばならないのでは無かろうか

再びアンドロ星雲αX星へ

rqの婚約祝いをしたTI3は、
ニュ-トリノ観測装置がある
近くの異次元転送施設へと急いだ。
それは、地球上には、5カ所にしかない。
まだ、一般には公開されず、機密でもないが
ごく限られた人にしか認識されていない。
TIJTは、まず、TIJ3とアンドロ星雲αXにいる宇宙船の転送ボックスZ
と、3点面解析開始した。
しばらくして転送ボックスXにTI3は、乗り込んだ。
後は、4次元歴の設定をするだけだ。
今回は、少し複雑である。
それは、αX星の宇宙探検船を直す環境装置を一緒に運ぶためである。
その装置は、地球尺度１mC立方のものである。
さて、TI3Tは、TI3と心因活動を開始いた。
地球時間で5分足らずである。
「^^^^^^。。。。。。＞＞＞＞＞＞

：号」
いまTJ3は宇宙船研究号の異次元転送ボックスYからでて、
船内に戻った。
「おい、帰ってきたぞ」
「やあ、助かった」
TJ3は、いった。
「電磁波、通信で会話できるのは、ありがたい。」

「機械任せでいいからね」
「ところで、αX星人のその後は、どうだ」
TI3は、TJ3に聞いた。
「もうよちよち歩きみたいだね」
「そうか、
　彼しか、僕たちとこの星では、伝繰できないからね」
「うん、それでね。
その機能から、その練習をしているのさ」
「今、TJ3Tが、寝ずに教えている。
この探検機についてのイロハを」
「ありがたい。もうすぐ、今回持ってきた環境装置が役立ちをそうだ。」
TI3はいった。
「容姿はどんなだ。αIJ3の？」
「まだ、認識できない」
TJ3は言った。
「少し休憩するか」
「そうしよう。君の好きな真弓の歌探しておいたよ。」
「ありがとう」
「深層が、和むようにね」
「じゃあ、僕は、次の仕事をするからね」
「明日ね」
「さようなら」
今回の、帰還の仕事は無事済んだ。
ありがたい

第八惑星第二衛星胡月

今、地球から運んだ環境装置ENB５号は、正常に動き出した。
そして、第８惑星の回収軌道上の第二衛星胡月
上に，宇宙船TIJKが、着陸するふさわしい環境を見いだした。
第八惑星G8には、２つの月があり、それは、G8E1とG8E2で１６０HTの角を保ち、
G8E1の外側２倍の回収軌道にG8E2がある。
ここなら、α星X星人の許可がもらえる。
そういう測定結果をENB５号は出した。
TJ3は、喜んだ。
「ありがとう、TI2」
「いや、どういたしまして、
君たちの３年の粘りが、今、x星人XIJ二にも届いたのだ。」
やっと、XJJの誕生によって、我々も新しい環境に適応できそうだ。
XJJも今に、新しい論理思考ができるようになる」
「遣星使の足の指は、７本と6本、手の指は、３本と4本、
XIJTから、XJJを通じて連絡がさっきあった。」
「早速、地球に知らせておく。」
「XJJの合遣相手を捜して、くれるんだね。」
TJ3は言った。
TJ2の役割が終わりそうだ。
今、第８惑星の第２衛星G8E2平和が訪れようとしている。
TIJK2号と3号は、G8E1とG8E2を連帯運動を始めた。
あたたしい装置ENB5号が、その情報を、はじき出した。
ああ、これからは、胡月を見るのが楽しみだ。
明るい平安が、１２３mtぶりに訪れようとしている。

助けて　THET

壁が来た。

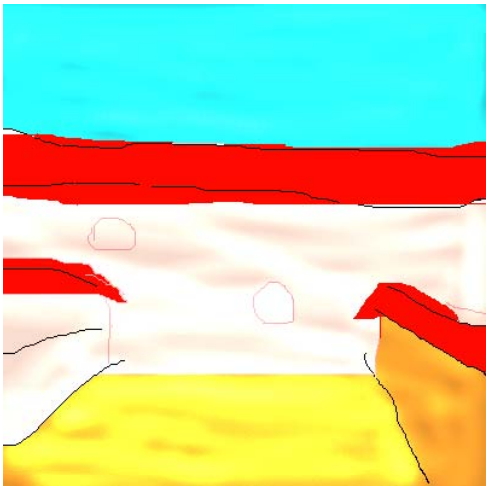
壁ができた。

瓦解した東西の壁

瓦解する南北の壁

壁に穴をあけて

たすけて　THET



第2章　JYEJYEの成長

序　”マゼラン星雲

飛ぶ鳥のごとく光のごとく星雲のある限り飛べ　我らに、未来がある”

さすらい
二度目の星雲写真
　私も観測したいマゼラン星雲
XJXは
露火をさすらい
そして、。。。。。。。。。。。。

マゼラン星雲に旅立った。

我に返って
宇宙は広い

果てしなく広い

心の旅も、果てしなく広い

君は今何をしているだろうか

ああ、一人タイプを打つ手が、

君を捜している。

（1）出発：マゼラン星雲へ

JYEJYEは、今、生活の基礎を固めようとしている。

そのうえで、宇宙の探検をしようと。

亡き母の仕事が何であったか、そして今父はどこにいるのか

これから、銀河宇宙を探さねばならない。

やっと、地球になれ、そして、

超空間の勉強をしたから、

異空間では、調和がとれない。

超空間の理論がいる。

絶対空間、相対空間、超空間、

異空間の時代に育ち

宇宙歴、(1, 2, 3, 4, x、j、x)に生まれ

(4,3,2,1,J,Y,E)に意識空間に入り、

今まで、辛抱して、地球知識を学習してきた。

そして、マゼラン星雲に旅立つ準備をしてきた。

これからは、CIX,TIXのお世話になる。

「新しい出発だ。」

CI23が、いった。

(2)まず、月面基地に寄る

JYEは、月面の地下にできた、超空間研究所を訪れた。

マゼラン星雲のπ星に、地球の自然環境と同じ、惑星があることが、発見され、

そこの住民と、コミュニケーションがとれることが判っている。

このことが、超空間研究所で、研究されている。まずはその学習である。

超空間研究所は、宇宙歴、(4,1,2,3,a,b,c)年にその活動が本格化しだしたのだ。

しかし、地球上にあると、その研究が悪用されるおそれがあり、特に、BQW団に研究を

盗まれるおそれがあり、空気のない月面基地で、活動を始めたのである。

TI23は、宇宙平和条約機構を作るため、

超空間研に滞在している。

「おはよう、JYE」

CI23がいった。

「今日は、何時まで」JYEが聞いた

「007時まで」TI23が答えた。

「では、003時までは、CI23と、CJについて、勉強します。」

「その後、005時まで,AI23のことを調べます。」JYEが言った。

「OK」TI23は言った。

CJとは、COMU―JOBのこと、

マゼラン星雲π星人との会話を通信機器の開発JOBである。

(3)逆暗号方式のJYE提案

JYEは、通信機器に、暗号を使うことに不賛成だ。

JYEは、隠蔽する暗号方式に変わり、

通信情報を、自由に盗めると言おうか、利用できる通信方法を考えている。

これは、赤ちゃん通信とでも言おうか、通信情報を極端に簡明幼稚化する方法だ。

そうすると、かえって、誰もが、その通信を理解し、盗むのがばかばかしくなるという方法

である。これ以上は、まだ。逆暗号方式の定義は、秘密である。でも、この通信文はもう、

オープンにされている。JYEJYEは、今急いで、CJの研究をまとめている。

（4）π星の第五惑星EPI

EPIでの交通

EPIでは、反重力装置を用いて、

移動が行われている。

それは、どういうものかというと、

PIと言う電磁波ではなく、反重力波を出す装置を使うものだ。

昔、重力波は、巨大な質量の変化により起こることが、わかっていた。

その後大発見があり、ある種の超空間を作り出す小型装置(ベルトを着けるだけ）

で、反重力波が制御できるようになった。そのお陰で、移動エネルギーが楽に得られるよ

うになり、建物にも、そのPI装置をつけ、宙に浮かすことができ、住居空間が3次元に

なったのである。そして、鳥のように、自由に空を飛べるようになったのである。

その惑星EPIでの、生活は、食物も、自然生産でまかなえ、気候も、ある種の、自

動コント

ロールによるものである。

だから、人々は、数学のような論理や、哲学のような思想の研究にに打ち込めるのであ

る。PI装置は、PI^（PI^PI）と言う、論理数値が必要とされ、実定数でない複素定数の時代

へと、進歩したためにできあがったものである。

（5）マゼラン星雲π星第五惑星EPIへ旅立ち

いよいよ、月基地から、

EPIに旅立つ。

宇宙歴（4，2，3，1，x、y、z）

逆暗号通信装置を持ち

EPIの宇宙都市に飛び立った。

超空間を移動し、時間にして、

tsmdmy（1，2，3，4，5，5）で到着

そこには、EPI23が、待っていた。

「ようこそ、EPIに」

「はじめまして、EPI23、

わたしは、JYEJYEです。

アンドロメダ生まれ、ヒロビロ星地球育ち、

地球の温暖化対策の勉強にきました」

「EPIの反重力移動装置が、地球用に

直すには、まだだいぶかかるようです。」

「そうですか。

地球の消費エネルギーを押さえるためにも

急いで、反重力装置の開発が必要です。」

「それには、地球育ちのあなたの体で、反重力ベルトの試作を

する必要があります。」

「　　。。「「「「「「。。。。。」」」」」」の

6重半天計算を急ぎましょう」

EPI23が言った。

「地球では、太陽、月、地球、人間、他物質２の6重半天計算が必要です。」

「人間がつけるベルトには、その重力影響データの解析装置を組み込むのですね」

「そうです。」

「そうとうの解析力のエピレータが必要ですね」

「錯綜空間解析と、移動解析が必要です。」

「だんだん判ってきました。」

「ここらで一休みしましょう。」

ふたりは、

カフェテラスに移動した。

そこには、思いもかけぬ人は、

居合わせた。

（6）母の友達　nene

JYEJYEは、生まれてすぐ、母を亡くした。

ここ移動体研究所で、EPI23が、JYEJYE

の、体の計測をしていたとき、

そのデータから、アンドロメダ一生まれの

履歴を取り出した。

その資料を、アンドロメダ係のNENEに見せた。

「びっくりしたわ、EPI23さん」

「私、この子知ってる。

私が、アンドロメダのヒロビロ星地球研究の専任講師

として、働いていたとき、教授だったAI3さんにあったのよ。

そのとき、JYEJYEというなの、AI3さんが子を産んだ直後だったのよ。」

「本当か、そりゃよかった。」

JYEJYEが、持ってきた、逆暗号通信機が、うまく作動している。

「JYEJYEさん、びっくりしたわ。

私、あなたのお母さんの友達。」

「え、そう」

「NENEと申します。」

「ぼく、JYEJYEです。」

「母が謎の死を遂げたと聞いていますが」

「その話、後で詳しくするわ。」

「有り難う。こんなところで、母の友達に会えるなんて」

「移動体研究所に、どれくらい滞在」

「できるだけ、地球に早く戻らねばならないけど」

「では、また戻ってくるのね。このマゼランEPI惑星に。」

「そうです。」

「今、反重力ベルトの開発の仕事に関わっています。」

「そうですか。」

「たぶん、tmhdmy（０、７、０、９、２、８）ぐらいで戻ってきます。」

「宇宙歴はいつ？」

「それはまだ未定です。」

「NENE、JYEJYEが、戻ってくるまでいる？」EPI23が、NENEに聞いた。

「たぶんいるでしょう。」

移動体研究所は、地球月は、928（９２＞＜３２）HIMの大きさだ。

今、移動体研究所は、錯綜空間解析装置、移動分解装置の地球月アジャスト装置の

組み立ての研究が終わりそうだ。

「JYEJYE、もうすぐ反重力ベルトができる。まず、マゼランで試験飛行。」

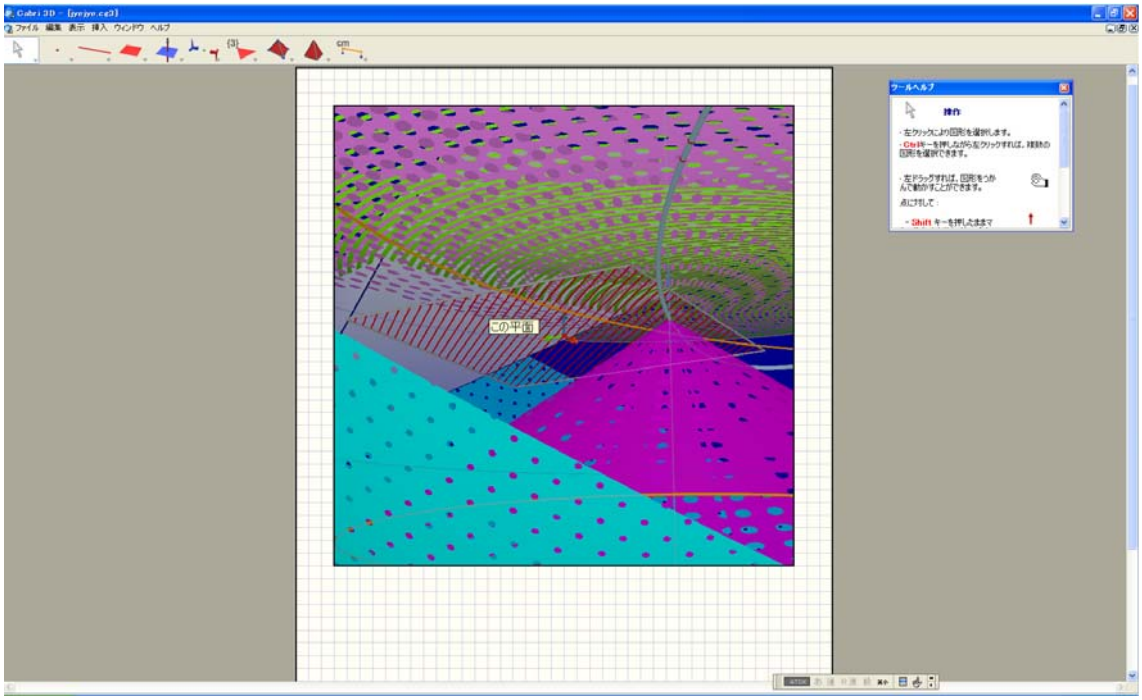
「はい。そうします。」

「どんな、試験飛行するのか、教えてください。」

「まず、HOMEtoHOMEいどうだ。」

。。。。。

JYEJYEは、これから、3回の試験飛行をする。



（7）母の死の原因

JYEJYEとNENEは、

移動体研究所を出て

出産療養所の

庭のベンチで、

会った。

「NENE、母は、どうして死んだんですか。」

単刀直入に、切り出した。

「そうね。これは、私たちの大問題になったことなの」

「どういうことですか。」

「JYEJYEのお父さんは、ヒロビロ星地球人

お母さんは、アンドロメダ星人、いや、マゼラン星人かもしれない。

まだ、お母さんの生まれ故郷は、判っていないのです。」

NENEが、話し出した。

「そうか、父が行方不明になったのは、母の生まれ故郷を探しに行ったからなんですね。」

「多分そうでしょう。」

「アンドロメダと、マゼランを何回も、超空間を往復して、いると言うことを聞いたことがあり

ます。」

「そう、まだ、宇宙歴「1，2，4，3，a、b、c」の頃は、異空間移動装置の時代だった。」

NENEが言った。

「超空間の時代でなかった。」

と、JYEJYEが言った。

「それで、お母さんの死因は、まだはっきりとは掴めていないのだけど。

JYEJYEのお母さんは、死ぬ運命にあったらしいの」

「どういうことですか。」

「星雲不一致による死亡らしいの。」

「宇宙医学でもまだ、解けない謎なのですね。」

「そう、アンドロメダのある星の生まれの母親は、

ヒロビロ星地球人の父親に持つ子を産んだら、

死ぬ運命にあるらしいの。」

「え本当ですか。」

「JYEJYEのお母さんは、その謎の研究をして、いたんですよ。」

「自分で、そのことを確かめてみたと言うことですね」

「そうらしいの。

御自分の研究に命を捧げられたのでしょうね。

もしかして、お母さんの出生の宇宙座標が、わかっていれば、たすかっていたかもしれないの。」

「それで、お父さんが、今、宇宙を彷徨っているのかもしれない。」

「だんだん僕の出生の秘密が判ってきた。」

「有り難うNENE。」

JYEJYEとNENEの出会いによって

露火のさすらいの

{THET　THET}

の意味も今にわかるかもしれない。

EPI23Tは、思った。

（8）HOMEtoHOME　飛行

JYEJYEは、反重力ベルトを用いて、試験飛行を開始した。

EPI23と、一緒に

移動体研究所から、惑星EPIを7周する飛行である。

まず、歩行飛行、つまり、足を動かし、操縦する飛行である。

自分の周りの、反重力場と、惑星の重力場の、相互作用により、

そして、測地線的軌道を描くように、障害物を避けて移動する訓練である。

鳥が飛ぶように、少し小走り気味に、滑空する。意識波キャッチで、飛べという意識で、宙

に浮く。

EPI23Tの指導の元に、JYEJYEは、飛行意識の訓練である。

「飛べTTT]

「右TTT」

「直進TTT」

「前方障害物TTT」

目に入ってくるものを

飛行意識に変える訓練をする、

また、レーダー意識も使う。

前方空き空間サーチ意識飛行等々である。

まず、移動体研究所、第一HOME出口から第一HOME出口への帰還飛行が終わった。

EPI惑星は、雨域コントロールがされている。

気象コントロール地域と非コントロール地域がある。

また人口も、人為コントロールされている。

人口調整所で、EPIの人口は計画運営されている。

非計画出産も可能であるが、それは、また、非計画計画という理論で

人口調整つまり、仕事や、教育や、レクや、その他の人数調整がされるようになってい

る。それでも、問題が起こることはある。完全計画性は一時やっていたが、うまくいかない

ことが理論的に証明され、今では、汎計画人口調整機構による生活が行われている。

このことは、移動研究所の人員、来客、その他に反映されている。

惑星EPIの人口は、そう多くはない。増えれば、星雲移住と言うことになる。

まず、HOMEtoHOME移動しても、人口問題が発生しないようにしないといけない。

さあ、第一チェックは修了。

JYEJYEは、EPI23に感謝した。

EPI23とはCI23のことであるが、

人口問題調整機構で、ひとり（１，１））１，１，１）の名前を利用するようになっている。

（９）地球に一時帰還

JYEJYEは反重力移動ベルトのテスト飛行を終えた。

反重力ベルトは、体の回りに特殊な波をだし、体の周りの空間を反重力にするものだ。

ヒロビロ星地球の環境でも、それが作動することを確認するため

JYEJYEは、超空間移動で、地球に戻った。

まず、CI２３に挨拶に行く。

「戻ってきました。CI23さん。」

「待っていたよ。」

「移動体ベルトを用いると、いよいよ地球の

反重力時代ですね。」

「しかし、まだ、これは、一般には、普及しない方がいいかもしれない、

地球の有史以来の歴史が変わり、その影響が、まだ、検討されていないから。」

「地球の温暖化予防策として、エネルギーのいらない反重力ベルトを用いることになった

のでは。」

「そう言うことでもあったが、大気コントロールのエネルギーが一番問題だ。」

「車対策だけではないのですね。」

「そうだよ。」

「では、また、EPI惑星の大気コントロール装置の導入も考えているのですね。」

「それで、いま、TITIが、君といっしょに、マゼラン星雲π星EPI惑星に行き、研究すること

になったのだ。」

「明日TITIを君に紹介する。」

エネルギー対策は、簡単ではない。

JYEJYEは、久しぶりに

地球の渚を歩いた。

この波も、大気コントロール装置ができれば、

形が変わる。

そう、地球の環境が一変する。

そのとき、人類が、不適応を起こさないとも限らない。

大変な任務である。

「TITIさん、大変ですね。」

「我々超空間旅行ができるものにとっては、たいしたことではないのですが、

一般人にとっては、温暖化の危機を脱エネルギーで乗り越えることの意味を考えるだけで

も大変です。

あと、tsmdmy（１，２，１，２，７）の時間がかかりそうです。

人類の危機を乗り越えるため、みんなで考えるようになりましたが、

犠牲も出ることをみんなが覚悟するまでには、まだ、時間がかかりそうです。」

「犠牲が出ない方法は、宇宙移住ですね。」

「そうです。」

「私の父が、その仕事をしていたとT2Tが言ってました。

TITIさん、私たちの任務は、いつまでも続きそうですね。」

「昔風に言うと3世代一仕事の時代です。」TITIが言った。

「数学の問題解決が、旧暦で４００年かかったと聞きますね。」

「時間の単位も、今では代わり、３世代が、協力し合う時代になりましたね。JYEJYEさん

も、そのうちお子さんができるのでしょうが。」

「まだ、その計画は、「ｘ、ｘ、ｘ、ｙ、ｙ、ｙ、ｚ」の中です。」

（１０）2次元宇宙地図

我々、地球人は、2次元しか見えない。

立体視することはできるが、

それは、2つの目があるから、

そうだ、4つの目を持つ宇宙人がいたという。

TITIは、JYEJYEに話した。

地球人は、どのように進化していくのか。

果たして、空が飛べるようになるのか、

無呼吸時間が、長くできるのか

食べ物をとらない時間を長くするようにできるのか

生物として生きること以外にないのか。

地球は、温暖化が進むとどうなるのか。

人類は、いつまで生き続けるのか。

「JYEJYE、僕らは、地球を変えようとしているが、

変えない方がいいのではないだろうか」TITIが言った。

「私の、この頃そう思うようになった。」JYEJYEも行った。

「他の天体で、未知体験をして帰ってくるだけでいいのではないか、

地球では、そのままの生活をし、未知体験をできるようになるには、

宇宙航海法をマスターしないといけないが、宇宙航海法も、どんどん変わるといっても、

tsmdmy（１，２，３，４，５，６）時間後とぐらいであるが。」TITIは言った。

「いま平均寿命が,tsmdmy(a,b,c,1,2,3)時間ぐらいになってきている。」JYEJYEは考えている。

ああ、生きている間に、父に会えるだろうか。。。。。。

果てしない宇宙、まだまだ、未知の方が多い。。。。。。

JYEJYEは、自分の未熟さに、今更ながら気づいた。

地球に反重力移動体を持ち込むことが無意味に思えてきた。

連邦調査会に意見書を提出しようと。考え出した。

もっと生きることの意味を考えねばならないと思った。

宇宙平和は、ものではない、哲学にあるように思えてきた。

一枚の宝島の地図

それは、遠い昔の冒険を誘う魅力の地図であった。

しかし、今は、それが、宝ではなく、平和の地図でなければならない。

未来都市EPI、そこには、宝があるのではない、平和があるのである。

Passion and Peace JYEJYEは、次第に、大人になってきた。

冒険とは、情熱であるが、平和を愛するからできることであり、

自分だけのものではない。人のためのものである。

それには、深い思想がいることを認識し始めた。

（１１）夢の後で

夢を見た。

手を切断される、

目が覚めた。

僕は、君が好き。

でも、君は遠いところにいる。

いつか会える人夢見

今日も続ける。

研究は、妄想がかり

しかし、内容はより高度なものになる。

JYEJYEは、TITIと、

空を飛んだ。

しかし、そこは、地球ではなかった。

新しい宇宙の国だった。

3人は、今、父の居所を探しはじめた。

NENEが、いった。

平行線の交わる宇宙と

交わらない宇宙を一緒にしようと。

そこに永遠の宇宙があるようだ。

第三章　JYEJYEの母と父

宇宙歴（1，4，2，3，X，Y，Z）、アンドロメダ星雲
βＨ星惑星ETでの出会い。

AIAIとSESEは、いまある鉱物を探していて出会った。

「君と会えてうれしい。」　SESEは、AIAIにいった。

「私も」

「ここは、もう海の下。」

「我々は、地上にいるんだ。」

「私たち、雲海を海といっています。

　雲海の下で暮らすことは、夢だったのです。」

「ヒロビロ星地球は、ここのような雲海はない。」

「わたしたちは、雲がない惑星の衛星にすみ、惑星の雲海の下の鉱物資源などを採取していました。」

「それで、そのような体をしているのですね。」

「私たちは、低重力の衛星に住み、惑星に飛行艇で仕事に出かけていました。」

「僕らは、反対です。惑星に住み、衛星が、宇宙基地です。」

「とにかく、異星人が同じ鉱物を探していたとは不思議だ。

　アスタチンセリウムがやっと見つかった。この結晶は、まだ合成できていない。」

「私たちもアスタチンセリウムを触媒とする化学を考えていました。

　体の中にごく少量見いだされて以来話題の物質です。」

「そうですね。」

「生命誕生と関わりがある。」

「とにかく採取し雲海の上に出ましょう」

「明日、私たちの飛行艇で待っています。」

「ありがとう、やっと共同研究者が見つかった。」

「このようなところまできていただいてありがとう。」

「僕らのやっと、異星人生殖の研究が、できるようになります。」

「ありがとう。」

「夢に見ることが、何を意味するかがわかる時代が来ますね。お互いの星で」

「そうです。」

「では、宇宙歴（１，４，２，３，Ａ，Ｓ，Ｘ）に会いましょう。」

「君と僕の子供が、生まれるかもしれないね。」

それから数日後、AIAIとSESEは、お互いを確かめ合った。

複雑な実験をしながら、二人は、 いつまでも一緒にいようと願っていた。

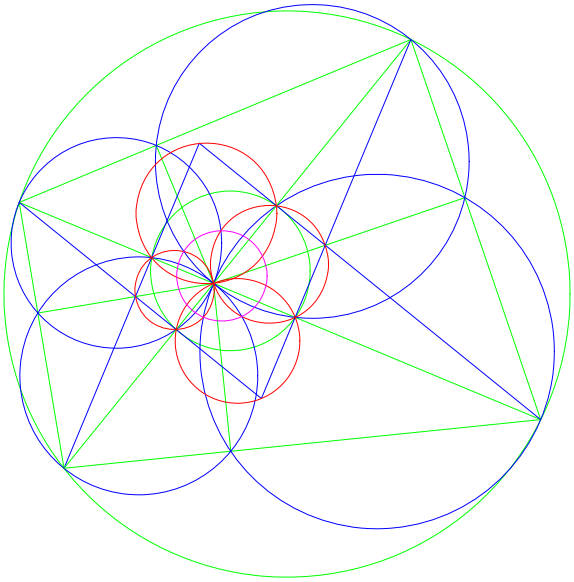
研究次第では、大きな変化が生まれる可能性がある。

宇宙の平和は、一つの星雲だけでは保てない時代である。

それが、AIAIのSESEの研究結果からわかってきた。

二人は、命をかけ、新しい星雲を目指し、銀河を旅することにした。

時に宇宙歴（1，4，3，2，I，E，T）



SESE

SESE は、今から、数十年前

宇宙歴、（１，２，４，３，ｘ、ｘ、ｘ）に

宇宙旅行を開始した。

人類の運命が変わろうとしていた。

人類には、個人というものが、会った時代が過ぎ、

個人は、人類全体のために生きる時代になってきた。

どんな人も、その使命は、人類の成長に寄与することであった。

掃除をする人、寝たきりの人にも、人類全体に寄与する仕事をするようになって来た。

個人の行動に自由はあるが、自由の行動そのものが、公の行動と結びつくような仕組み

になってきていたのである。

窮屈とはいえない、反対にやりがいを感じる行動となっていた。

全体主義ではない、全容活動の時代が来たのである。

個は、全容のために行動する時代、それぞれが使命を帯び

生きている。

ＳＥＳＥは、宇宙に、旅立ち、自分の伴侶を捜すという、役目を持ち、異星人との

合体を、その使命としていた。

ああ、それは、未知との出会いの追求であり、地球とのお別れであった。

しかし、そこには、宇宙愛のものがかりが、始まったのである。

まず手がかりに、オリオン星雲に、旅だった。

ＳＩ２Ｔは、オリオンの謎三つ星の動きを研究していた。

そして、その動きが、一種双対運動をしていることを発見した。

新しい天体運動である。

そのことを、ヒロビロ星地球の天文家が知り、その研究に、ＳＥＳＥを派遣することにした

のである。

時に宇宙歴　（１，２，４，７，ｘ、ｘ、ｘ）である。

地球を出発したのが、（１，２，４，７，６，５，３）

今から数十年前である。

オリオンへの宇宙船の中

SESE は、地球からオリオンに向かっている。

重空間移動であるが、地球時間で一週間ぐらいかかる。

異空間移動の前に、重空間移動が出来、銀河旅行が出来るようになった。

SESE は、食事係、乗組員 10 名の食事を作る。

今日は、船内栽培の野菜のサラダと缶詰の焼き魚とスープと

ポテトである。みんなの体に合わせた、カロリー計算をして作る。

食前酒にワインが少し、

艦長をのぞき、9 名がこのとき顔を合わせる。

といっても、広くない船内、５人掛けのテーブルしかなく交代で食べる。

食後、コーヒーに似た飲み物パピーを飲む。

KI5 がいった。

「重空間移動は、初めてだ。階段状に進むので、外の景色が、絵本のように変わるね。」

といっても、視空間の話ではない。宇宙船には窓がありそれがスクリーンになっていて、

現時点の空間パノラマを映し出すのだ。

目が覚め、その様子を確認し、みんな共通意識を持つようにする。

地球時間で 3 交代制の飛行である。

食事係の SESE が一番重労働である。

食事以外にも仕事がある。

オリオン星雲の食生活研究だ。

さらに、飲料水の確保が出来るか、

これは、化学反応で、水素と酸素から作るが

それにごく微量のミネラルを入れねばならない。

とにかく、船外活動で、材料が手にはいるかどうかの着陸地点の

環境調査もしなければならない。

早期探査空間の開発も、その仕事である。

重空間移動は、空間の重みを利用する。

空間は、（（Z、Y、X、W），（ A、B、C、D），（2、4、6、8），（1、3、5、7）)で表される。

16 文字の重ね合わせが鍵を握る。

この航法の詳しいことはさておき、

もうオリオン星雲につく

３０重空間移動であった。

オリオン星雲

SESE は、オリオン星雲に月のある惑星を持つ星があることを確認した。

AIAI と出会い,JYEJYE が生まれ、

AIAI の死を克服し、AIAI の生まれ故郷を探して、地球歴（１，３３，５，８）が過ぎた。

SESE の任務は、AIAI の死の謎を解くことであった。

謎の鉱物のアスタチンセリウム内の自由電子の動きを

解析し、やっと、勤めを終えた。

だが、3 重星の運動の束縛からは、まだ脱出できずにいる。

ここで、長時間滞在して、マゼラン星雲に戻る方法を研究し続けた。

また、アンドロメダ星雲の 3 重星の動きも研究対象に入れて、

重空間移動の航法から、異空間移動の航法にたどり着き、

後、マゼラン星雲の 3 重星の動きとあわせた、3 星雲の間の超空間移動

を、ヒロビロ星地球の宇宙歴にあわせることで、JYEJYE に再びあえることを

確認した。

一方、JYEJYE は TITI と、反重力移動装置による地球改造計画の中止を決め、

超空間移動による宇宙航法のやり直しをして、SESE の捜索を開始していた。

父 SESE の無事を祈り、また、地球での再会を願い、宇宙歴の解析をしていた。

ちょうどそのとき、新しい異星人との出会いが JYEJYE に訪れようとしていた。

「はじめまして、JYEJYE」

「はじめまして、JUJU」

「私たち、宇宙歴（１，２，３，４，Ｊ，Ｅ，Ｕ）生まれですね」

「そう僕たち、これから、一緒に研究生活に，入るときがきましたね。

JUJU さんは、オリオン星雲育ち」

「JYEJYE さんの、ヒロビロ星での研究、読ましてもらいましたよ。」

「ありがとう、これも、逆暗号方式通信のおかげですね。」

「JYEJYE さん、これからは、私と一緒に、旅をするのですね」

「そう研究旅行です。」

「3 星雲とヒロビロ星の 4 開空間を旅するのですね。」

「やっと、宇宙歴の同じ人に出会いました。

僕は、うれしいです。」

「わたしも、」

「さあ、楽しく、研究しましょう。」

「ありがとう、NENE さんにも、お礼言っときますね。」

「僕も,NENE さんにはお世話になりました。よろしくお伝えください。」

JUJU は、NENE さんと意中通信を開始した。

JYEJYE は、父の無事を確信している。

しかし、再会は、まだ、先である。

第4章　JYEJYEの夢

1）うといにまにみみね。4星人

JYEJYEは、宇宙員。

今父がどこにいるか、気にならなくなった。

JUJUに会い、二人で、研究の夢を持つことにした。

その一つ、多極動径関数論、ヒロビロ星のマックスウエルという青年が、

円の半径を発展させて、考えたという資料が、残っている。

真性特異点の理論家も参加してくれそうである。

JUJUの母が、その一人だったそうである。

るるるるるるるるるるる。

地の果て、空の果て、海の果て、

この研究テーマ、

3人がいる。

T8Tが、いった。

{{第三性の誕生を待つ必要がある。}}

{両性人か、無性人、}

「そうすると、4人がいる。」

「そうです。」

「arigatou」

「僕らの研究を、倍にすればいいのですね。」
「今日から、オリオン、マゼラン、北斗、そして、アンドロメダ、

４極動径関数論を、同時展開します。」

「NENEと、北斗星座人の、出会いを待ちましょう。JUJUが、いった。

「研究テーマが、一つ増えた。」＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

？？？？？？？？？？？

JYEJYEは、伝想思考に入った。

今、JUJUの母から、思井が、伝わった。

T8Tは、

JYEJYEとJUJUの教育を終わり、

消えていった。

「二人の夢を、実現するには、

宇宙時間歴（４，２，８，１，（J,J,T．G,E））のレポートを待つ必要がある。」

「ありがとう。

お父さん」

SESEは、夢を持った。子供の姿を見ることが、あるだろう。

（２）　理想

「君、数学がすき？」

JYEJYEは、jこを使って、夜空でささやいた。

いま、北斗七星に、旅立ちの月面基地にたっている。

月面では、北も、南も、固定した方向ではない。

北極星も夜空で動く。

ひろびろ星、第三惑星が、この月面での第二太陽である。

「そうです。」

JUJUの妹、TAKIが答えた。

TAKIも、今では、オリオン3世である。

JUJUの父は、オリオン星人

「そうだ、君に、3星問題を、解いてもらっていたね。」

「はい、先日、一つの解を見つけました。まだ、アイデア解で、

MTFでは、ありません。」

三星の誕生の宇宙歴をMTFで表すのは、もう時間の問題。

TAKIは、それを、調べ始めた。

JYEJYEの北斗七星への旅たちは、JUJU姉妹と、

それから、JYEJYEの、マゼラン星の義兄弟，GOGOとの、

4性探しの、4人旅である。

若き、精鋭、4人の旅が、始まる。

北極星の惑星に、銀河方程式の解の検証にいくのである。

△（E(c、m)@H（t、r）@G（b、p））＝F（4，２，８，１，x、y、z、w）

これは、未完のダイバージェンス。

これから、十年の研究の課題である。

果てしない宇宙、

我々は、その謎と一つ一つ解くことを楽しむのである。

JYEJYEは、今最後の別れを、地球にした。

ドーナツの、体も、今は、消え、

普通の、体になった。

ああ、君と五語の役割が、

TAKIを励ます。

TAKIも、どんな将来が、待っているか、

未来方程式の、予想案を参考に、

マゼラン星の義兄弟、GOGOに指導を受けながら、

1年の共同生活を始める。

JUJUは、今、ひろびろ星の外軌道で、

3人を待っている。

GOGOは、マゼラン星のEPI星から、

超教官異動で、旅立ち、の仲間に人事異動

加わっている。

（4）　ミーティング

JYEJYEとJUJUとTAKIとGOGOは、

初めて、月面発射場の会議室で、

4人が、揃い、

3星問題を解く旅の計画案を、検討し始めた。

１．ひろびろ星

２．オリオン3星

３．マゼラン3星

４．アンドロメダ3星

５．北斗3星

3，4，5は、ひろびろ星からは、見えない。

いやまだ、星間対応が、ない。

2のオリオン3星は、オリオン座の中にある。

3星を見つけるため、

（1，2，＃）マゼラン3星の命名、

（2，3，＃）アンドロメダ3星の命名

（3，1，2）北斗七星から、3星選ぶ仕事。

（4，0，J）その命名が、4人の仕事である。

これの分担、

JYEJYEは、（4，0，J）

JUJUは、（2，2，＃）

TAKIは（3，1，2）

GOGOは、（1，3，＃）
の具体愛作り

ヒロビロ−マゼラン−オリオン−アンドロメダ−北斗七星

この順序で、旅をすることになる。

第一解周計画である。

さあ、夢を乗せ、出発

4案の解決は、これから、

第二章、第一計画で実現さす案を、みんなで了解した。

arigatou。

（5）旅の朝

月が、きれいだったと、地球から、報告があった。

ひろびろ星の公転軌道に入った、（J，　5，2，I，　d，　5，g，　1)のメモ座標を元に、

銀河船ジュービは、8惑星の位置計算をした。((x,y,z),(a,b,c),(1,2,3),(t,p,s),(i,s,o),(s,k,c),

(m,d,t),(k,2,3))から、マゼラン3星の重心径軌道を、測定し,ワープ設定を開始し

た。

JYEJYE、JUJU、TAKI、GOGO、みんな元気

まだ、この時代でも、自己エネルギーだけでは、生きていかれない。

生命系の解明の先に、ワープ移動系の解明で、自由交方ができるようになった。

エネルギー補給は、エンゼル係数で、1/1000単位、つまり、全ジュービ旅行経済費の1/1000

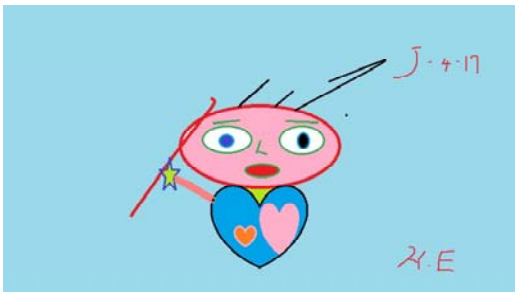
がいる。

「arigatou、TAKI」エネルギー補給係TAKIに、3人が、お礼を言った。

夢が実現しつつある。

4人は、静かな旅立ちを味わった。

OOOOOOOOO「スティックちゃんのHeikousenヘアーを,土産に」



SESEは、4人とあえそうな予感がした。

一人一人、

みんな小さな面影に

なっている。

ありがとう。

3星マゼランの命名

は、マゼラン星雲の軌道に入ってから。

ジュービは、飛び続ける。

GOGOは,自分の子供たちと別れたが、

母星にもうすぐつくことが、うれしい。

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

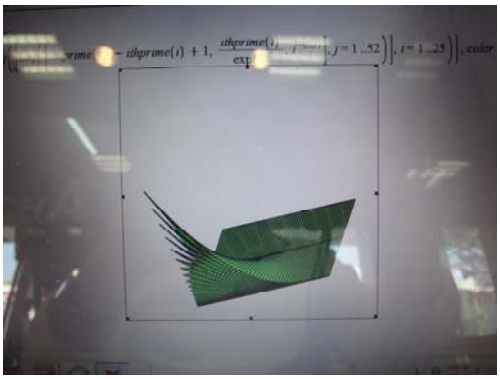
夢と現実

JYEJYEの夢の中に現実が映像が現れる。

; ; ; ; ; ; ; ; ; ; ; ; ; ; ; ; ; ; ; ;

差異なら、ひろびろ星、--------＞＞＞＞＞＞＞　？？？？　＝＞０、

（６）　GOGOの夢



今日は、一つ、愛を得た。

サーフェス関数の実験

SESEの子、TUTUの夫、GOGOは、

まだ、数学の徒

これから、三人を指導しながら、たびをする。

ようやく、銀河方程式のステップについた。

E＜H＜Gは、古典論　Gij＝～も古典論

ありがとう。届いた君の思い。

寂しさなんかなくなった。

JYEJYEは、感謝した。

もう、ひろびろ星第三惑星には、戻らないだろう。

ジュービの操縦、いや操作が、大変である。

第５章　JYEJYEの帰還

飛ぶ鳥のごとく光のごとく星雲のある限り飛べ、我らに、未来がある”

さすらい
二度目の帰還
　露火のさすらい
XJXは、我が道を振り返った。

そして、。。。。。。。。。。。。

マゼラン星雲から北十字星にもどった。

宇宙は広い

果てしなく広い

心の旅も、果てしなく広い

君は今何をしているだろうか

(1) 出発：マゼラン星雲を

JYEJYEは、今、生活の基礎を固めた。

そのうえで、宇宙の探検をして。

亡き母の仕事が何であったか、そして今父はどこにいるのか

これから、銀河宇宙を探さがす必要がなくなった

やっと、北十字星になれ、そして、

超空間の勉強をしたから、

異空間は、調和がとれ。

空間の理論が

絶対空間、相対空間、超空間、だけでなく

宇宙歴、(1, 2, 3, 4, e、j、h)に生まれ

(2,3,1,4,J,S,E)に意識空間に戻り、

辛抱して、空間知識を学習してきたことが役立つ。

そして、マゼラン星雲を旅立つ準備をして。

これからは、CIX,TIXのお世話になる。

「新しい出発だ。」

CI23が、いった。

(2)まず、月面基地に寄る

JYEは、月面の地下にできた、空間研究所を訪れた。

マゼラン星雲の北十字星に、地球の自然環境と同じ、惑星があることが、発見され、

そこの住民と、コミュニケーションがとれることが判っている。

このことが、空間研究所で、研究され、その学習である。

空間研究所は、宇宙歴、(4,1,2,3,a,b,c)年にその活動が本格化しだしたのだ。

しかし、この惑星上にも、その研究があり、空気のない月面基地で、

活動を始めたのである。

TI32は、宇宙平和条約機構を作るため、

空間研に滞在している。

「おはよう、JYE」

CI32がいった。

「今日は、何時まで」JYEが聞いた

「007時まで」TI32が答えた。

「003時までは、CI32と、CJについて、勉強しました。」

「その後、005時まで,AI32のことを調べます。」

JYEが言った。

「OK」TI32は言った。

CJとは、COMUーJOBのこと、

マゼラン星雲北十字星人との会話の通信機器の開発JOBである。

(3) 逆方式のJYE提案

JYEは、通信機器に、逆方式を使うことにした。

JYEは、隠蔽する暗号方式に変わり、

通信情報を、自由に利用できる通信方法を考えている。

これは、通信情報を極端に簡明幼稚化する方法だ。

そうすると、誰もが、その通信を理解し、逆方式の定義の通信文は

オープンにされている。JYEJYEは、今急いで、CJの研究をまとめている。

(4) 北十字星の第8惑星EPO

EPOでも交通

は、反重力装置を用いて、

移動が行われている。

昔、重力波は、巨大な質量の変化により起こることが、わかっていた。

その後大発見があり、ある種の空間を作り出す小型装置（ベルトを着けるだけ）

で、反重力波が制御できるようになった。そのお陰で、移動エネルギーが楽に得られるよ

うになり、建物にも、そのEPO装置をつけ、宙に浮かすことができ、住居空間が3次元

になったのである。そして、鳥のように、自由に空を飛べるようになったのである。

その惑星EPOでの、生活は、食物も、自然生産でまかなえる。

だから、人々は、数学のような論理や、哲学のような思想の研究にに打ち込めるのであ

る。EPO装置は、I^（I^I）と言う、論理数値が必要とされ、実定数でない
複素定数の時代へと、進歩したためにできあがったものである。

（5）マゼラン星雲π星から北十字星第8惑星EPOへ旅立ち

いよいよ、月基地から、

EPOに旅立つ。

宇宙歴（4，2，3，1，x、z、z）

逆通信装置を持ち

EPOの宇宙都市を飛び立った。

空間を移動し、時間にして、

tsmdmy (1, 2, 3, 4, 5, 1) で到着

そこには、EPI32が、待っていた。

「さよなら、EPOを」

「さよなら、EPI32」、

わたしは、JYEJYEです。

アンドロメダ生まれ、ヒロビロ星地球育ち、

空間意識論対策の勉強にきました」

「EPOの反重力移動装置が、地球用に

直せそうです。」

「そうですか。

地球の意識空間を広げるめにも

急いで、反意識装置の開発が必要です。」

「それには、地球育ちのあなたの体で、反ベルトの試作を

する必要があります。」

「　　。。「「「「「「。。。。。」」」」」」。。の

6垂線計算を急ぎましょう」

EPI32が言った。

「地球では、太陽、月、地球、人間、植物、動物の6重意識計算が必要です。」

「人間がつけるベルトには、その影響データの解析装置を組み込むのですね」

「そうです。」

「そうとうの意識空間が必要ですね」

「錯綜意識解析と、移動意識解析が必要です。」

「だんだん判ってきました。」

「ここらで一休みしましょう。」

ふたりは、

カフェテラスに移動した。

そこには、思いもかけぬ人は、

居合わせた。

(6) 友達　pepe

JYEJYEは、生まれてすぐ、母を亡くした。

ここ空間研究所で、EPI32が、JYEJYE

の、体の計測意識をしていたとき、

そのデータから、アンドロメダ一生まれの

履歴を取り出しその資料を、アンドロメダ係のpepeに見せた。

「びっくりしたよ」
、EPI32さんはいった。

「私の子が知ってる。

子が、働いていたとき、教授だったAI3さんにあったのよ。

そのとき、JYEJYEという名はAI3さんが産んだよ。」

「本当か、そりゃよかった。」

JYEJYEが、持ってきた、逆通信機が、うまく作動している。

「JYEJYEさん、びっくりしたよ。

私、あなたの友達。」

「ええ、そお」

「pepeと申します。」

「ぼく、JYEJYEです。」

「母が謎の死を遂げたと聞いていますが」

「その話、詳しくする。」

「有り難う。こんなところで、母の友達に会えるなんて」

「空間意識研究所に、どれくらい滞在」

「できるだけ、地球に早く戻らねばならないけど」

「では、また戻ってくるのですね。」

「そうです。」

「今、反ベルトの開発の仕事に関わっています。」

「そうですか。」

「いつ戻ってきます。」

「新宇宙歴は（2341, xyz）」

「pepe、JYEJYEが、戻ってくるまでいる？」EPI32が、pepeに聞いた。

「たぶんいるでしょう。」

錯綜空間解析装置、移動分解装置の地球月アジャスト装置の

組み立ての研究が終わりそうだ。

「JYEJYE、もうすぐ反ベルトができる。まず、北十字星で試験。」

「はい。そうします。」

「どんな、試験するのか、教えてください。」

「まず、HOMEtoHOMEだ。」

。。。。。

JYEJYEは、これから、3回の試験をする。

意識波キャッチで、感謝した。

EPI32とはCI32のことであるが、

（1, 1, 1）（1, 1）の名前を利用するようになる。

（7）地球に帰還

JYEJYEは反ベルトのテスト飛行を終えた。

ヒロビロ星地球の環境でも、それが作動することを確認するため

JYEJYEは、空間移動で、地球に戻った。

まず、CI32に挨拶に行く。

「戻ってきました。CI32さん。」

「待っていたよ。」

「いよいよ地球の意識時代ですね。」

「しかし、まだ、これは、一般には、普及しない方がいいかもしれない、

地球の有史以来の歴史が変わり、その影響が、まだ、検討されていないから。」

みんなで考えるようになりましたが、

私たちの任務は、いつまでも続きそうですね。」

pepeは、JYEJYEに話した。

地球人は、どのように進化していくのか。

果たして、空が飛べるようになるのか、

無呼吸時間が、長くできるのか

食べ物をとらない時間を長くするようにできるのか

生物として生きること以外にないのか。

人類は、いつまで生き続けるのか。

「JYEJYE、僕らは、地球を変えようとしているが、

変えない方がいいのではないだろうか。」

「私の、この頃そう思うようになった。」JYEJYEも行った。

「他の天体同様自然にJYEJYEに変わってくるのではないだろうか。、

地球では、そのままの生活をし、未知体験をできるようになるには、

。。。きている。」JYEJYEは考えている。

父に僕の意識の中で会えるだろう。。。。。。

果てしない宇宙、まだまだ、未知の方が多い。。。。。。

JYEJYEは、自分の未熟さに、今更ながら気づいた。

しかし、徐々に,自然に変わってゆくだろう。　露火のさすらい。第一部完

著者
阪大工学研究科応用物理専攻修了
数学教師、研究書研究員，　数学教師
卵形線研究センター
　独立研究員をへて、
現在、思考とは何かを思考中

露火のさすらい第一部
発行　2015/09/01
編著　蛭子井博孝
連絡先
090-4800-9285
ebisuihirotaka@io.ocn.ne.jp
http://geomatics85.org/